

令和2年7月 経営経済動向調査結果（要約）

宇城久区域商工会議所・商工会広域連携協議会

宇城久地域ビジネスサポートセンター（宇治商工会議所・城陽商工会議所・久御山町商工会）

宇城久区域商工会議所・商工会広域連携協議会では、景気動向を把握するために、宇治・城陽・久御山区域内に有する企業を対象にアンケート調査を行った。

今回は、令和2年1月～6月期実績と、令和2年7月～12月期予測についての調査を本年7月に実施。425社から回答（回答率42.5%）を得た。

1. 業界の景気

各企業に関する業界の景況感を全業種で見ると、令和2年上期実績は「上昇」とした企業が4.3%、「下降」と回答した企業が77.8%、BSI値が▲36.8と、景気が減退傾向にあったところに新型コロナウイルス感染症の影響が重なったことで、大幅なマイナスを示す結果となった。特に新型コロナウイルス感染症については、収束時期が見通せないことから、令和2年下期予測についても「上昇」と「下降」の乖離幅はさらに広がり、BSI値は▲37.4と、先行きに悲観的な見方をしている企業が多い結果となった。

業種別の上期実績では、年度末に公的受注が増加する建設業以外の業種で「下降」と回答した企業がそれぞれ75%を超え、BSI値も▲35を超えている。建設業でもBSI値は▲27.1で、新型コロナウイルス感染症が全業種に影響していることがうかがえる。

規模別の上期実績では、A・B規模企業ともにBSI値は大幅なマイナスを示しているが、下期予測では、B規模企業でさらに悲観的に捉えている企業が多い結果となっている。

業界の景気	令和元年7月～12月			令和2年1月～6月						令和2年7月～12月		
	実績			予測			実績			予測		
項目	上	下	B	上	下	B	上	下	B	上	下	B
業種	昇	降	S	昇	降	I	昇	降	I	昇	降	I
全業種	11.8	45.7	▲17.0	9.8	49.4	▲19.8	4.3	77.8	▲36.8	3.6	78.4	▲37.4
製造業	10.1	53.9	▲21.9	9.8	57.2	▲23.7	3.8	79.0	▲37.6	4.2	81.6	▲38.7
卸・小売業	10.8	51.4	▲20.3	5.7	57.1	▲25.7	4.6	75.4	▲35.4	0.0	77.4	▲38.7
飲食業	8.3	54.2	▲22.9	9.1	54.5	▲22.7	0.0	96.6	▲48.3	6.9	89.6	▲41.4
運輸・通信業	0.0	26.7	▲13.3	0.0	53.3	▲26.7	0.0	76.9	▲38.5	0.0	84.7	▲42.4
建設業	19.6	26.8	▲3.6	18.5	25.9	▲3.7	10.5	64.6	▲27.1	4.2	61.7	▲28.8
サービス業	15.4	29.2	▲6.9	9.2	32.3	▲11.5	4.1	77.5	▲36.7	4.1	73.5	▲34.7
A規模企業	9.9	39.7	▲14.9	10.7	40.5	▲14.9	6.1	73.1	▲33.5	8.6	71.6	▲31.5
B規模企業	12.4	47.9	▲17.7	9.4	52.8	▲21.7	3.9	78.9	▲37.5	2.4	80.1	▲38.9

（注）BSI値とは、企業経営者の景気全般の見通しについて、強気、弱気の度合を示すもので、プラスならば「強気」「楽観」、マイナス（▲）ならば「弱気」「悲観」を意味する。
算出方法は、上昇回答から下降回答を差し引きし、2分の1を乗じて計算する。
またA規模企業は従業員20人以上の企業で、B規模企業は19人以下の企業。

2. 自社の操業度

各企業における操業度について、全業種平均のBSI値をみると、令和2年上期実績では▲32.7と、令和元年下期実績の▲10.4から22.3ポイントも下降した。これは前回調査時の上期予測▲13.8よりもはるかに厳しい数字で、新型コロナウイルス感染症の影響は、各企業に想定以上の落ち込みをもたらしたことが伺える。また、令和2年下期予測では、多くの企業でこの状態が今後も続くとしているからかBSI値▲34.9と更なる悪化を予測している。

業種別の上期実績では、特に新型コロナウイルス感染症対策により行政から時短営業や営業自粛の指導があった飲食業では、「上昇」と回答した企業が0、「下降」と回答した企業が90%を超え、BSI値は▲46.8を示したほか、建設業以外の業種でもBSI値は▲30を超え、厳しい状況が続いている。

3. 企業経営動向

・生産又は売上高

各企業における生産又は売上高について全体的にみると、令和元年下期実績のBSI値▲12.6が、令和2年上期実績では▲34.1と大幅に悪化した。また、令和元年下期予測のBSI値も▲34.1で、多くの企業では当分この状態が続くことを予測している。

業種別に上期実績をみると、時短営業や営業自粛に対応していた飲食業の業績悪化が突出しており、「減少」と回答した企業が100%を占める結果となっている。

・営業利益

各企業における営業利益を全体的にみると、景気の減速傾向を見込んで▲16.3であった令和2年上期予測のBSI値を超え、令和2年上期実績は▲32.6と大幅に悪化した。来期予測でも“業界の景気”等が大幅に悪化しており、先行きが見えない現状から、BSI値は更なる減少が予測されている。

・雇用の状況

各企業における雇用の状況を全体的にみると、令和2年上期実績BSI値は▲5.5と横ばい推移している。来期予測をみると「増加」と回答の企業が減少、BSI値も▲8.5に悪化しており、コロナ禍で人員の現状維持が困難な企業も増加していると思われる。

4. 当面の経営上の問題点

各企業における経営上の問題点で、**全企業を平均して最も多いのは「売上・受注不振」**の74.1%であり、ついで「求人難」18.8%、「商品価格・受注単価安」18.6%、「人件費の高騰」17.6%、「原材料価格高」14.8%の順になっており、「売上・受注不振」が突出していることがわかる。

業種別にみると、全ての業種で「売上・受注不振」を一番目に挙げており、飲食業(87.5%)、製造業(80.1%)、卸・小売業(70.8%)の3業種で回答の7割を超えている。また規模別でも、A規模企業(64.6%)、B規模企業(76.4%)とも「売上・受注不振」を一番目に挙げています。

5. 新型コロナウイルス感染症での影響や不安点について

新型コロナウイルス感染症での影響や不安点について、最も多い回答は316社の「売上の減少」で、回答事業者の78.4%を占めた。ついで多かったのが「停滞している経済活動の回復」で213社、回答事業者の52.9%であった。さらに「従業員の雇用維持」については130社(32.3%)が、「資金繰りの悪化」については96社(23.8%)が不安に感じている一方で、「従業員や顧客など身近な感染者の発生」についても115社(28.5%)が不安に感じており、各企業においても、当面は経済活動の再開と感染拡大の防止を天秤にかけた難しい事業選択を迫られている状況である。

しかしながらコロナ禍の現状にあって、「業態転換への取り組み」を既に開始されている企業も27社(6.7%)存在し、現状の打開と企業の存続のために知恵を絞られている。